

紙芝居 『オガチのすむ島』

4月から全市立学校で「世界遺産学習を核としたふるさと学習」が始まりました。市では、沖ノ島をはじめとする世界遺産が宗像にあることを「知ること」から始める手立ての一つとして紙芝居を作成し、全校に配付しました。紙芝居は、宗像の民が沖ノ島をいかに大切に思い、心のよりどころにしていたかを、一羽のオガチと漁師たちとのふれあいを通してドラマチックに描いています。市民図書館にも所蔵していますので、ぜひ手に取ってご覧ください。

宗像地方では、オオミスナギドリのことを「オガチ」と呼び、沖ノ島はオガチの集団繁殖地です。



清水耕蔵 / 脚本・絵
市教育委員会 / 企画・制作

小学生読書リーダー養成講座

各学校の図書委員30人が7月23日・30日(月)に、宗像ユリックス図書館で絵本の読み聞かせやPOPの作り方などを学びました。読書リーダーとして2学期からの活躍が楽しみです。

中学生読書サポーター養成講座

8月1日(水)に開催した講座で、生徒たちは、各校での取組みの情報交換後、図書館で脱出ゲームを体験しました。学校での委員会活動に活かしてくれることでしょう。

子どもだけで夜の図書館を楽しもう

8月5日(日)に、宗像ユリックス図書館で開催しました。参加した子どもたちは、自由に場所を選んでゆっくり本を読んだり、バックヤードツアーで普段は入ることができない閉架書庫などを見学したりして楽しみました。



童謡誕生100年！

童謡が誕生して今年で100年になります。1918年に童話や童謡を創作するため雑誌『赤い鳥』が発刊されました。童謡には、自然を大切に、生きものを思いやる心が歌い込まれています。

『童謡の百年』 井手口彰典 / 著 筑摩書房

誕生して100年になる童謡が、時代ごとに どう歌われてきたのかを辿ります。

『新装版 学年別赤い鳥』 赤い鳥の会 / 編 小峰書店

『赤い鳥』から生まれた童話・童謡の中から小学生におすすめの作品を収めた本。

『童謡の風景』 合田道人 / 文 中日新聞社

童謡の歌詞とメロディーをわかりやすく解説しています。

